

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2017年6月5日]

5月の農業情報

タイトル 露地畑の緑肥に極晩生ソルゴーが急速に普及

とき 平成28年4月1日～平成29年3月31日

ところ 田原市

主体・対象 露地野菜(キャベツ、ブロッコリー)栽培農家

内容

農業改良普及課では「県の地域戦略促進支援事業」を活用した、家畜ふん堆肥と緑肥や牧草を組み合わせた露地畑の土づくりを推進している。

キャベツ収穫後の畑では、毎年、緑肥としてソルゴーが200ha程度栽培されているが、すき込み前にソルゴーが出穂すると、穂にアザミウマ類が寄生することがあり、他作物への悪影響が懸念されていた。

このため農業改良普及課では、通常の栽培条件下では出穂しないとされる極晩生品種を試作し、は種後13週間(3か月)を経過しても出穂しないことを明らかにするとともに、栽培特性やすき込み後の分解特性を明らかにし、極晩生品種の普及を支援した。また、極晩生品種の種子代金は従来品種の約2倍と高いため、種子代金の差額補填に市の補助事業を活用するよう栽培農家に促した。この結果、28年度の極晩生ソルゴーの栽培面積は65haとなり、29年度は100haにまで増加する見込みとなった。

しかし昨年、排水不良のほ場においては慣行品種よりも生育が劣る事例が見られたため、本年度、極晩生品種の土壌条件の悪いほ場での適応性を確認し、より安定して栽培できる品種を選定する。



播種後3か月の生育状況
(左：慣行品種、右：極晩生品種)